

## 「ラフラン諸島」ってどこ？



## What's in a name?

やまもと やすのり  
山本 泰則

民博 文化資源研究センター

今から三年ほど前に、「ジョージ・ブラウン・コレクション」の標本資料について、収集地を地図にプロットしてみたことがある。このコレクションは、宣教師であり神学博士でもあったジョージ・ブラウンが、一九世紀後半から二〇世紀初頭にかけて南太平洋の島々で収集した約三〇〇〇点の民族誌資料である。現在、民博に収蔵され、資料情報のデータベースも一般公開されている。

収集地を地図にプロットするには、地名の緯度経度が必要である。情報を整理してみると、異なる地名は一二四種類に絞りこめた。ローカルな地名やあいまいな表記が少なくなかったため、緯度経度の調査はひとつひとつ手作業でやらざるを得なかった。位置の特定にもっとも苦労した地名のひとつに、「ラフラン諸島」があった。収集地情報は、「ニューギニア ラフラン諸島」としか書かれていない。「ラフラン」は洋梨の「ラ・フランス」(La France)ではなく、綴りはLaughlin (または Laughlan) である。

まずは定番の Google Maps や Google Earth、地名の Wikipedia 的存在の GeoNames、地図帳などをあたってみたが場所はわからない。インターネットを検索すると、旅行ガイドをはじめとして「Laughlin Islands」という文字を含むページが写真入りでたくさん見つかるのだが、肝心の位置がわからない。また、「国立国会図書館デジタルコレクション」のな

かの「ニューギニア面積人口表」(南洋経済研究所、昭一九)という文献にも行き当たった。その二三ページには、ラフラン諸島は「ムルア島東方四〇哩の地点に位し、……」と書かれていたが、正確な位置はしるされていなかった。ともかく、ラフラン諸島は幻の島々ではなさそうだ。

そうこうするうちに、偶然ある文献をウェブで見つけた。題名は「Report of Investigation of Islands in the Territory of Papua and New Guinea Phosphate Survey, 1958」。オーストラリア政府の鉱物資源にかかわる機関の調査報告書で、一九五八年発行だった。その本文に、ラフラン諸島の位置は東経一五三度四分、南緯九度一八分と示されており、付録の地図にはラフラン諸島がはっきりと記



載されていた。Google Maps を見ると、その場所にラフラン諸島の文字はなかったが、ふたつの島が確認できた。やっと一件落着。地名の位置を調べることが、定石はないともいえるが、ウェブを探せばなんとかなる時代になったのだと実感したできごとだった。